

## 研究成果の刊行に関する一覧表

1. こころの発達の起源, からだの科学No 103, 1982, 日本評論社, 小嶋謙四郎。
2. 新しいタイプの言葉遅れの子供たち, 総合研究開発機構編子供と都市, 1982, 3月, 学陽書房, 小嶋謙四郎。
3. 母と子のきずなの形成—アタッチメントの発達の起源—, 臨床婦人科産科, Vol. 36, No 5, 1982, 医学書院, 小嶋謙四郎。
4. 母子関係からみた子どもの心, 健康教室, 増刊号, 1982, 東山書房, 小嶋謙四郎。
5. 乳児の行動状態に関する研究Ⅱ—満期産新生児を対象にして—, 小児保健研究第41巻第5号, 昭和57年9月, 日本小児保健協会, 大藪 泰・大藪素枝・田口良雄。
6. 乳児の行動状態に関する研究Ⅰ—早期産児を対象にして—, 小児保健研究第40巻第2号, 昭和56年3月, 日本小児保健協会, 大藪 泰・川井 尚・金子 保・白川園子・二木 武。
7. 保育園児および家庭児のアタッチメントの発達(母子研究No 4), 1981, 社会福祉法人真生会, 社会福祉研究所, 繁田 進 他。
8. アタッチメントの安定性に関する研究(母子研究No 5), 1983, 社会福祉法人真生会, 社会福祉研究所, 繁田 進 他。
9. 乳児の気質—その意義と評価法—(小児科診療44巻8号), 昭56. 8. 1, 診断と治療社, 庄司順一・前川喜平。
10. 行動の胎生学(小児医学14巻6号), 1981. 12. 10, 医学書院, 前川喜平・庄司順一。
11. 乳幼児健診における月令別チェックリスト(小児科22巻13号), 昭56. 12. 1, 金原出版(株), 落合幸勝・前川喜平。
12. Neurological Evaluation of Newborn Infant (Acta Paediatrica Japonica Vol. 24, No 1, March), 1982, Societas Paediatrica Japonica, 前川喜平。
13. 正常児の行動(小児医学16巻1号), 1983. 2. 10, 医学書院, 庄司順一。
14. 妊娠・出産・産褥期の適応行動
  - (1) 妊娠の受容(母性衛生Vol. 22, No 1), 昭和56年6月, 母性衛生学会, 上田礼子・小沢道子・平山宗宏・池田紀子・中川礼子。
  - (2) 妊婦への適応評価方法の考察(母性衛生Vol. 22, No 4), 昭和57年3月, 母性衛生学会, 池田紀子・中川礼子・上田礼子・平山宗宏。
  - (3) 妊娠中と産褥期との関係(母性衛生Vol. 23, No 1), 昭和57年6月, 母性衛生学会, 上田礼子・小沢道子・平山宗宏・池田紀子・中川礼子。
17. 夫たちあいによる分娩とその意義に関する追跡的研究(第一報)(母性衛生Vol. 23, No 1), 昭和57年6月, 母性衛生学会, 上田礼子・猫田泰敏・小沢道子・平山宗宏・内入島明美・唐沢陽介。
18. 育児の出発点としての周産期, 昭和54年1月, 周産期医学9(1), 南部春生。
19. 画像自動分析による母子間コミュニケーションにおける音声—体動同期現象の研究(社情報処理学会第23回全国大会講演論文集), 昭和56年10月, 情報処理学会, 石井威望・渡辺富夫。
20. 画像自動分析による母子間コミュニケーションにおける音声—体動同期現象の研究(第2報), (社情報処理学会第24回全国大会講演論文集), 昭和57年3月, 情報処理学会, 石井威望, 渡辺富夫。
21. A Computer-Assisted Quantitative Image Analysis of Entrainment Behavior and Theoretical Application for Simulation Model of Mother-Neonate Interaction. in printing, 1983, Pediatric Research, T. Kato,

- E. Takahashi, T. Watanabe, T. Ishii.
22. 異常行動—サルとチンパンジーの事例—(サイコロジー7月号No.28, p.40~47), 1982.7.1, サイエンス社, 糸魚川直祐。
  23. 初期経験の病理(平井久編「行動の異常」現代基礎心理学11, 8章p.199~219), 1982.11.24. 東京大学出版会, 糸魚川直祐。
  24. 動物の成長—比較研究の立場から—(講座現代の心理学2, 人間の成長, 2章, p.57~148, 1982.12.25, 小学館, 糸魚川直祐。
  25. 海外赴任者の健康管理担当者ハンドブック, 昭和56.7.25, 新企画出版社, 野崎貞彦, 植田理彦。
  26. 厚生省心身障害研究, 昭和57.3, 母子相互作用研究班, (班長小林 登), 植田理彦。
  27. 財団法人健康開発財団研究年報Ⅲ, 昭和55.3, 財団法人健康開発財団, 植田理彦・力石道勝。
  28. 小児心身症の臨床統計的観察(小児科臨床第36巻第1号), 昭和58年1月5日, 日本小児医事出版社, 吉田政己他。
  29. NICUに入院した児の親子関係について(小児保健研究), (投稿中), 日本小児保健学会, 鈴木千鶴子他。
  30. 小児耳鼻咽喉科領域(小児科22:11), 昭和56年10月25日, 金原書店, 鈴木淳一・加我君孝。
  31. 聴性誘発反応, 特に脳幹反応の臨床応用(臨床検査25:11), 昭和56年11月15日, 医学書院, 山田 修・鈴木淳一。
  32. Various approaches for the improvement of hearing. (Advances in Otorhino-Laryngology) 1983, Karger, Suzuki, J.
  33. 障害児の聴覚(小児看護4:12), 昭和56年11月, へるす出版, 加我君孝他。
  34. Influence of Labyrinthine Hypoactivity on Gross Motor Development of Infants (Ann NY Acad Sc Vol. 374), 1981, NY Acad Sc, Kaga, K., Suzuki, J. et al.
  35. Auditory brainstem responses in infantile spasms (Int. J. Ped. ORL4:1) 1982, Elsevier, Kaga, K. et al.
  36. 自閉症への小児神経学的アプローチ—睡眠障害の病態生理からの考察—, 発達障害研究4巻3号, 1982年12月5日, 日本文化科学社, 瀬川昌也。
  37. シジナム舞踏病内科セミナーPNS基座核疾患, 1982年, 永井書店, 瀬川昌也。
  38. (睡眠時)ミオクロームス "restless legs" を伴う睡眠障害, 臨床症状シリーズ, 睡眠障害, 上田英雄, 島藺安雄, 武内重五郎, 豊倉康夫編, 1982年, 南江堂, 瀬川昌也。
  39. Tourette Syndrome in Japan. Etiologic Consideration Based on Associated Factors and Familial Clustering in "Gille de la Tourette Syndrome" eds. A. J. Friedhoff and T. C. Chase, 1982, Raven Press, Kiyofuro Kondo & Yoshiko Nomura.
  40. Tourette Syndrome in Oriental Children: Clinical and pharmacological Consideration 同上, 1982, Raven Press, Yoshiko Nomura & Masaya Segawa.
  41. Clinical Pharmacology of Sxtapyramidal Symptoms in Childhood Dystonia, Tics and Chorea, (未定), 1983年, 第3回国際小児神経学会シンポジウム講演内容。未定 Masaya Segawa.
  42. 妊婦が母親になる心理のプロセスと母子相互作用(日本教育心理学会第24回総会発表論文集), 1982.11.26, 日本教育心理学会筑波大学, 武内珠美・利島 保。
  43. <学会発表>長時間ビデオによる新生児行動の連続的解析, 昭和57年6月10日, 第24回日本小児神経学会総会, 南風原幸子・藤原順子・長畑正道。

44. 実験育児学—サルの場合—(分担執筆), 子供のヒューマンバイオロジーライフサイエンスの進歩—第7集, 日本医師会編, 1980年10月, 春秋社, 畠山富而。
45. 実験育児学, 公衆衛生, 45(6), 1981年6月, 医学書院, 畠山富而。
46. 実験育児学, 1981年9月, メデイサイエンス社, 畠山富而。
47. 肥満児の栄養学的問題—食事・運動—小児科Mook No. 24(分担執筆), 1982年6月, 金原出版社, 畠山富而。
48. 特集・育児を考える, 実験育児学, 小児科診療・46(1), 1983年1月, 榊診断と治療社, 畠山富而。
49. 行動異常と動物モデル, 小児医学・16(1)(分担執筆), 1983年2月, 医学書院, 畠山富而。
50. NICUにおけるスナグリー(周産期医学第12巻第5号), 昭和57年5月, 東京医学社, 高橋滋・他。
51. 双胎・低出生体重児の新生児期発達におけるおしゃぶり刺激と触覚刺激(日本新生児学会雑誌, 第18巻第3号), 昭和57年9月, 日本新生児学会, 高橋滋・他。
52. イナイナイバーと乳児の心拍反応について(乳児発達研究会発表論文集第4号), 昭和57年3月, 河野洋二郎・吉田弘道・小沢敏子・市川珠理・帆足英一。
53. 乳児院における家族の面会—その頻度の分析—, 昭和57年3月, 庄司順一・帆足英一・二木武。
54. 妊娠期の母子関係—妊婦用文章完成法検査(SCT-PKS)の作成—, 昭和57年3月, 川井尚・庄司順一・恒次欽也・斉藤 晃・吉田弘道・河野洋二郎・二木 武。
55. 妊娠期の母子関係1—妊婦用文章完成法検査(SCT-PKS)の作成およびその概要について—(第29回日本小児保健学会講演集), 昭和57年9月, 庄司順一・他。
56. 妊娠期の母子関係2—妊婦用文章完成法検査(SCT-PKS)の反応の統計的分析—(第29回日本小児保健学会講演集), 昭和57年9月, 川井 尚・他。
57. 胎動にはじまる母児相互関係—超音波による胎動の解析—, 臨床婦人科産科(Vol. 36, No. 11, p. 795, 1982), 1982年11月10日, 医学書院, 坂元正一・上妻志郎・水野正彦。
58. 初期の行動発達と気質~母子関係とのかかわり(サイコロジー1983. 3月号), 1983. 3. 1, サイエンス社, 三宅和夫。
59. Infant's temperamental disposition, mother's mode of interaction, quality of attachment and infant's receptivity to socialization—Interim progress report—(Annual Report, 1981~82, Research & Clinical Center for Child Development Faculty of Education, Hokkaido University), 1983. 3. 10, 北海道大学教育学部, 三宅和夫他5名。
60. 発達初期の母子関係(母子研究No. 5), 1982. 11. 30, 社会福祉法人真生会社会福祉研究所, 南出江津子・三宅和夫。
61. 胎動と新生児期活動性の連続性(脳と発達), 投稿中, 石川 丹・南出江津子。
62. Relation of temperamental disposition to Classification of attachment (SRCD Monograph Vol. 48.), 印刷中, Society for Research in Child Development, U. S. A. Univ. of Chicago Press, Kazuo Miyake, Keiko Takahashi.
63. 音の環境をめぐる親子の関係づけ(臨床婦人科産科36巻11号800~804), 1982年11月10日 医学書院, 室岡 一。
64. 子宮内音と児のResponse(日本新生児学会雑誌17巻4号469~475), 1981年12月, 日本新生児学会, 室岡 一。
65. 子の母への絆と, その起源—周産期行動学的理解に立って—, 臨床婦人科産科(第36巻第11号), 昭和57年11月10日, 医学書院, 山内逸郎。

66. 福井県の母親の育児態度標準像の追求第一報，仁愛女子短期大学紀要13号，昭和57年3月31日，渡辺嗟恵子・荒川朱実・山本勇志。
67. 同上，第二報，仁愛女子短期大学紀要14号，昭和58年3月20日（予定），渡辺嗟恵子・荒川珠実・山本勇志。